

「スポーツとメディア (Sport and the Media)」

ジョン・ホーン教授 (セントラル・ランカシャー大学 : 英国)



日時 : 2010年10月9日(土) 14:00-16:00
会場 : 関西大学堺キャンパス SA501 教室
主催 : 関西大学人間健康学部
共催 : 日本スポーツ社会学会
参加者 : 人間健康学部学生と一般来場者を合わせて約 140 人

講師のジョン・ホーン教授 (Dr. John Horne : University of Central Lancashire, UK) は、スポーツ社会学とレジャー研究の分野で世界的に活躍して来られ、学術研究誌“Leisure Studies”の編集委員長を長年務めておられます。2002年に“Japan, Korea and the 2002 World Cup”、2004年に“Football goes East”を編集・出版され、日本のサッカー事情についてもよくご存じです。また、2006年には、“Sport in Consumer Culture”を出版し、スポーツの消費者の視点から現代社会を鋭く分析しておられます。

今回の講演では「レジャーと娯楽をめぐって繰り広げられる新しい人間模様」がテーマとなりました。そのなかで、スポーツの世界に今どんな変化が起こっているか、商業主義やメディア産業の影響力の拡大で今後スポーツがどう変わっていくかをホーン氏に解説していただきました。



我々が知るスポーツは、19世紀後半に近代的な特徴を備えた競技活動として登場しました。しかしここ半世紀ほどの間に、それは多くの先進国で個人のアイデンティティを定義する上で鍵となるものとなりました。スポーツにまつわる消費活動は急速な成長を遂げましたが、それはオリンピックのようなスポーツ・メガイベントの影響とともに、フィットネ

ス・クラブやストリート・スポーツのような「ライフスタイル・スポーツ」的な参加形態が普及した影響によるものです。今後は後者のような、非競技的で、個人の生活に密着したスポーツ実践に注目する必要があるとホーン氏は指摘されました。

こうした変化は、スポーツ活動にある種の政治的な緊張をもたらしました。国民国家を超える権力を発揮するに至ったグローバルな企業が、あらゆるものを金儲けに利用しようとする現代において、スポーツに関わる人間はどうすれば健康と娯楽を提供し、人間解放的な価値をもたらすことができるかを模索する義務を担っています。



以上のようなご講演を受けて、会の後半ではフロアから受け取ったコメントカードから興味深い質問を拾い上げ、ホーン氏に答えていただきました。ホーン氏自身のライフヒストリーから日本のスポーツ事情に対する分析まで幅広くお答えいただき、大幅に予定時間を超過したにもかかわらず、会場は最後まで盛り上がっていました。